

# 横浜市感染症発生動向調査報告 8月

## 《今月のトピックス》

- 風しんの報告数が増加しています。
- A型肝炎の報告が多い状態が続いています。
- 伝染性紅斑の報告が多い状態が続いています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が23件ありました。今後の推移に注意が必要と考えられます。
- 百日咳の報告が40件ありました。今後の推移に注意が必要と考えられます。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈8月期に報告された全数把握疾患〉

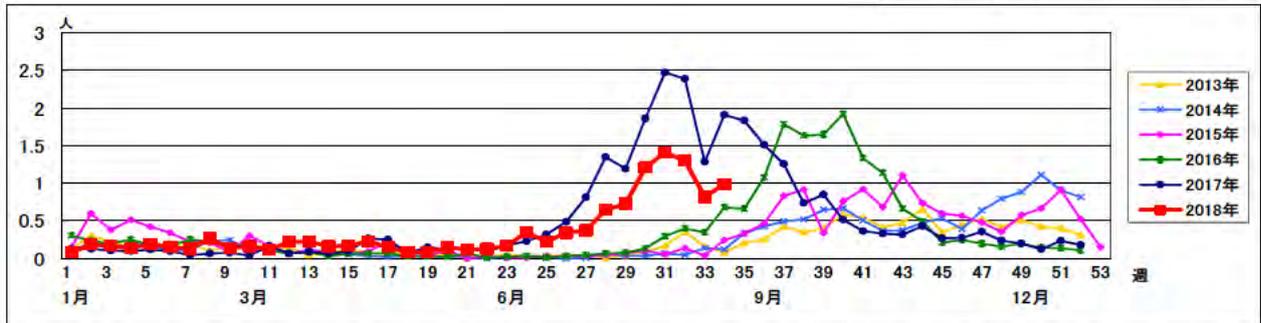
腸管出血性大腸菌感染症	23件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
A型肝炎	4件	水痘(入院例に限る)	1件
デング熱	1件	梅毒	18件
ライム病	1件	播種性クリプトコックス症	1件
レジオネラ症	2件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	3件	百日咳	40件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	9件	風しん	9件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件	—	—

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が20件(うち4件が無症状病原体保有者)、O26の報告が1件(無症状病原体保有者)、O111の報告が1件、O115の報告が1件ありました。
- 2 E型肝炎: 2件の報告があり、いずれも国内での経口感染と推定されています。
- 3 A型肝炎: 推定される感染経路は、国内での経口感染が2件、経口または異性間性的接触が1件、詳細不明の性的接触が1件で、いずれもワクチン接種なしでした。
- 4 デング熱: フィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- 5 ライム病: 国内での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が1件ありました。
- 6 レジオネラ症: 肺炎型の報告が2件あり、感染経路不明です。
- 7 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が3件ありました。国外での経口感染と推定される報告が1件、国内での経口感染と推定される報告が1件、感染経路不明が1件でした。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 9件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が3件、G群の報告が2件あり、感染経路等不明でした。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 60歳代および90歳代の報告が1件ずつありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が2件(いずれもワクチン4回接種あり)、50歳代の報告が1件、60歳代の報告が1件、70歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種不明)ありました。
- 12 水痘(入院例に限る): 40歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種なし)ありました。
- 13 梅毒: 18件の報告(無症状病原体保有者8件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。国内での感染が17件、国内またはタイでの感染が1件でした。感染経路は、異性間の性的接触が13件、同性間の性的接触が2件、詳細不明の性的接触が3件でした。男性15件、女性3件でした。
- 14 播種性クリプトコックス症: 1件の報告があり、感染地域等不明です。
- 15 バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 2件の報告がありました。1件はネパールでの感染が推定され、1件は感染経路等不明です。
- 16 百日咳: 10歳未満では乳児が4件(ワクチン接種あり2件、なし2件)、小児で16件(ワクチン接種あり11件、不明5件)の報告があり、10歳代で15件(ワクチン接種あり10件、不明5件)、20歳代で1件(ワクチン接種不明)、30歳代で3件(ワクチン接種不明)、40歳代で1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 17 風しん: 検査診断例8件、臨床診断例1件が報告されています。10歳代2件(いずれもワクチン接種不明)、20歳代2件(いずれもワクチン接種不明)、30歳代1件(ワクチン接種なし)、40歳代3件(ワクチン接種あり1件、なし1件、不明1件)、60歳代1件(ワクチン接種不明)でした。

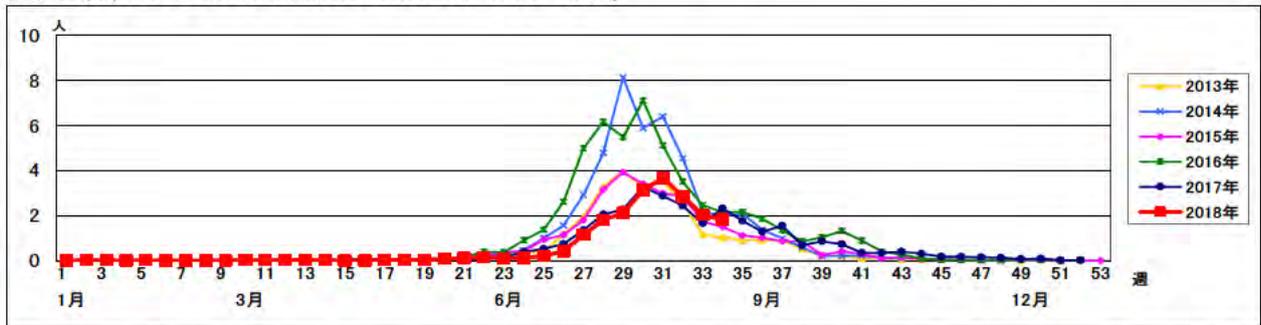
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第30週	7月23日～7月29日
第31週	7月30日～8月5日
第32週	8月6日～8月12日
第33週	8月13日～8月19日
第34週	8月20日～8月26日

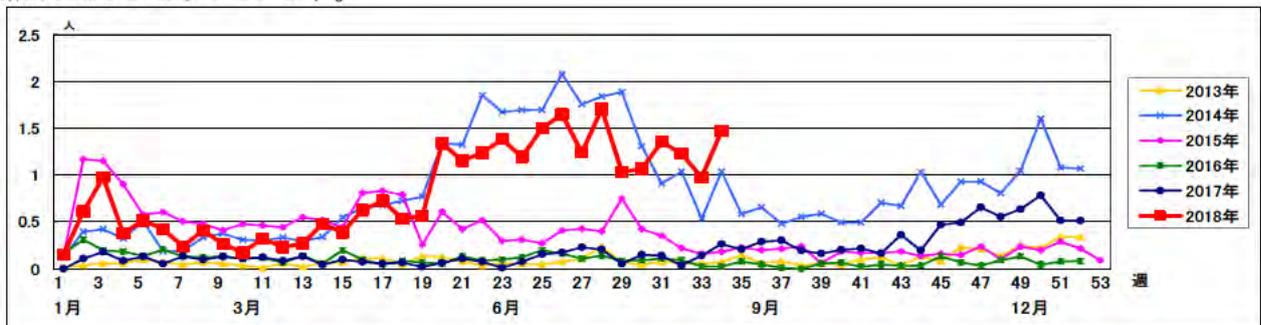
1 RSウイルス感染症: 第27週で定点あたり0.37、第28週で0.65、第30週で1.21と増加傾向となり、第31週で1.41となってピークとなりました。その後は漸減し、第34週で0.99となっています。



2 ヘルパンギーナ: 第26週にて0.42と増加傾向となり、第31週で3.67となってピークとなりました。その後は漸減し、第34週では定点あたり1.81となっています。



3 伝染性紅斑: 2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第34週では定点あたり1.47となっています。



4 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:16件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:1件	淋菌感染症	男性:15件	女性:1件

5 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.50	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件		—

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点30件、内科定点5件、基幹定点20件、眼科定点3件、定点外医療機関から搬入された検体は24件でした。

9月7日現在、ウイルス分離7株と各種ウイルス遺伝子27件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(8月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 *1	ヘル パン ギー ナ	無 菌 性 髄 膜 炎	低 月 齢 発 熱	血 高 サイ ト カイン 症	肝 障 害
インフルエンザ AH1pdm 型			1							
インフルエンザ AH3 型			1							
アデノ 3 型					1					
アデノ 54 型					1					
パラインフルエンザ 1 型	2									
ヒトメタニューモ		2								
RS		2		4						
ヒトコロナ*2		1								
ライノ	1									
ヒトパレコ 3 型									1	
ヒトパレコ 4 型								2		1
コクサッキー A2 型							1			
コクサッキー A4 型	2					3				
コクサッキー A9 型								1		
コクサッキー A10 型	1									
コクサッキー B2 型	1						1			
コクサッキー B4 型						1				
コクサッキー B5 型								1		
エコー 11 型							1			
エンテロ 71 型							1			
合計	1 6	0 5	2 0	0 4	1 1	1 3	1 3	1 3	0 1	0 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:咽頭結膜熱を含む、\*2:HCoV-229E or NL63、HCoV-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

「菌株同定」の主な依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌7件、サルモネラ菌2件などとなり、非定点からの依頼では、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、非結核性抗酸菌1件、バンコマイシン耐性腸球菌が1件ありました。保健所からは、腸管出血性大腸菌16件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌4件、インフルエンザ菌2件などとなっています。

「分離同定」の検査は、基幹定点から紅斑熱群・ツツガムシ3件ありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(8月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	7	<i>Enterobacter aerogenes</i> (2) <i>Enterobacter cloacae</i> (1) <i>Citrobacter freundii</i> (2) <i>Pseudomonas aeruginosa</i> (2)	
	サルモネラ菌	2	<i>Salmonella</i> Enteritidis、 <i>Salmonella</i> Stanley	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	6	<i>Enterobacter cloacae</i> (1) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1) <i>Escherichia coli</i> (2) <i>Proteus mirabilis</i> (1) <i>Morganella morganii</i> (1)	
			バンコマイシン耐性腸球菌	1
	非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i>	
	保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter aerogenes</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)
腸管出血性大腸菌		16	O157:H7 VT1VT2(11)、O157:H7 VT2(1)、 O157:H VT1VT2(2)、O115:H10 VT1VT2(1)、 O111:H VT1(1)	
バンコマイシン耐性腸球菌		2	<i>Enterococcus faecium</i> van B保有	
インフルエンザ菌		2	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能(2)	
肺炎球菌		1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 15型	
劇症型溶血性レンサ球菌		4	A群TB3264(1)、A群型別不能(1)、G群(2)	
分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 基幹定点	紅斑熱群・ツツガムシ	全血	2	不検出
		皮膚	1	不検出

【 微生物検査研究課 細菌担当 】